

竹取新聞

株式会社 カグヤ
東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング
2号館10階



第76版

理念と実践で
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一主義」の理念をカグヤクルーの日々の出来事からの内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

形にすること

東京都にある光明第一保育園様へお伺いしました。

先日行われた運動会についてお話を聞きますと、「どうやったら保護者に競技の出来栄えや順位ではなくて、発達の過程を見せられるだろうか、どうやったらなぜこの競技をやっているのかを伝えられるだろうか」と悩んでいたそうです。そして、丁度その時に保育環境研究所ギビングツリーの会員園さんがメーリングリストで共有して下さっていた「運動会についての資料が助けとなり、まずは丸ごと真似て行きながら自分達の保育の写真と照らし合わせて作り上げたそうです。

そのしおりを見せて頂いたのですが、「走る」ことがなぜ大切なのか、どんな発達過程を経ていくのかなど、競技そのものではなく、「運動会」そのものが子ども達の発達のどんな過程を表現しているのかが見えてくる内容となっていました。園長の須崎先生は「お客様で保護者だけではなく、職員同士も運動会の目的や意味を共通理解することが出来ました。」と仰います。



運動会も子ども達の発達過程を見る大切な行事なんですね。

「行事一つも」いつたい何のたのめ「行事なのか」を形にしていく事が、保護者にとっても職員にとっても大切であることを教えて頂きました。私たちも自分達の実践の「いつたい何のために」という部分を形にしていく事を大切にしていきたいと思えます。

自ら気づき深める

千葉県成田市にある、つぶえ保育園様にお伺いしました。こちらの園様では啓発という意味も含めて、年に一回以上、職員の皆様と一緒に演劇を観に行き、感じたものを共有するという取り組みを続けていました。保育の話し合いだと新人やベテランという立場で話しづらさが出てしまう場合があり、そこから離れた共通の話題だと先生方も心を開きやすいのだそうです。

また、この取り組みは「園様の目指している姿」にも繋がっています。園には「マニキュアルのようなものではなく、子どもの姿から深く気づき、何をすべきかを考える」ということを大事にされています。そのため職員の方が質問してきても「答えは子どもにあるよ」と教えずに本人の気づきを促してあげるのだそうですが、その『気づく感性』を高めるために

も、保育とはまた違う分野の『演劇』を活用しているのとこのとでした。

実際に演劇を観た後は、「よく分からなかった」という声もあるそうですが、園長の石田先生は「それでもいい」と仰います。「生き方が深まったり、同じものを何度か観ていくうちに『こういうことですか?』と自然と声があがってくるんです」と。そのお言葉には職員の方々への大きな見守りを感じ、また「何かを教えるのではなく演劇を観に行くだけ」という研修スタイルにも面白みを感じました。私たちも自ら気づき深めることを大切にしていきたいと思えます。



生き方をテーマにした演劇は、先生方の生き方を高め、それが日々の保育にも繋がってきます。

役割を活かす

長野県長野市にあるすずらん保育園様にお伺いしました。こちらの園では県外の見守る保育を実践する園に見学へ行ったり、自園で実践を深められています。その中で、今年の4月から新たにはじめた実践をご紹介します。

今年主任がフリーとなり、「すずらん新聞」という職員間の共通認識を図るため2ヶ月に1度、新聞を発行しフリーで動いて気づいたことや新しい玩具の紹介など現在第4版まで発行しているそうです。あえて保護者向けの新聞ではなく、職員の共通認識を図るために発行している理由について園長の松橋先生へお聞きすると、「保護者向けにするとどうしても、気を遣って職員に本来伝えたいことが伝わらないことがあります。今年主任がフリーという特色を活かして気づいたことを職員へ発信

して欲しい」と思い始めました。」と仰られました。

他園に見学へ行くだけでなく、どまらず、自園の実践を見返し役割を活かして共通理解を深めていく姿勢に感じ入るものがあります。私たちも見学で終わることなく、自社の現状を見返し持ち帰った実践を楽しく取り組んでいきたいと思えます。



世田谷区から出されているポスター



【世田谷区 保育の質ガイドライン】
※インターネット検索からダウンロードが可能です。

CCN Caguya Company News カグヤニュース

※カグヤでは、クルー同士別々の場所においても、互いの気持ちや様子が共有できるよう、「カグヤニュース」という社内報を毎日メール配信しています。ここでは、その中から一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

住み活↓炭活

カグヤはいま空前の炭ブーム。最幸の発酵場となるべく、カグヤに運び込まれた大量の備長炭。とあるご縁から炭を深めたカグヤの当主の、もともと健康的な環境にしようとの想いから、社内全体に木炭を設置することになりました。

木炭には浄化作用があり、室内の湿度も一定に保ってくれるだけでなく、なんとアンチエイジング効果もあるとか。：。俄然、カグヤ婦人部は盛り上がりです！



想像以上の量に一同、唖然。



さすが！抜群のチームワーク！！



ついに窓際一面に炭が設置されました！

まずは木炭を入れるボックスづくり。綿密な設計図のもと、ホームセンターで木材をカットしてもらい、電動ドリル片手に組み立て開始です。板をしつかり押さえる係、ネジを打ち易いように穴をあける係、ネジを垂直にガッチリ打ち付ける係、個々の得意が活かされます。仕上げは全体に柿渋を塗って完成です。そしていざ、炭入れ。社内中に炭粉が舞う中、ボックスの中に木炭を並べてゆき、大重量の木炭ボックスは頼れる男性陣が窓際へ。大仕事を全力で遣り切り、全員一致団結で取り組んだ環境づくり。空気と共に心も澄んでいくようでした。

教えない教育

先月、社員研修で新潟の「点塾」にて日本のフアンリテーターについて、学ぶ機会を頂きました。「点塾」は「今の教育は教えるばかりで、育てるがない」という問題意識を基礎に開塾して、もうすぐ31年。「教えない教育」を大事にされているという点で、実際の研修はま



時には、「自分らしさ」の発見も！



屋外で童心にかえります。

さに「体験から学ぶ」ことばかり。

特に、「自己表現のワークショップ」を通して、子ども心を体験できたことは印象的でした。目的から動くというより、単に「楽しいから」「心地よいから」と、モノや空間をつくる過程は、子どもが夢中で遊んだり、全力で生きることと同じ感覚だったように感じ、頭で考えるばかりでなく、そんな直感や子ども心を普段から大事にしたいと感じました。「見守る保育」で、子が自ら育とうとする力を信じ見守っていくように：教えるのではなく、自分でやってみて、体や心で気付く方を大事にしたいです。

暮らしの味わい

新潟研修の際に、十日町市の山間にある築100年の古民家に宿泊しました。釜戸で薪をくべてご飯を炊き、囲炉裏の炭火で魚を焼き、けんちん汁を作りました。料理中は、ひと時も火から目を離せず、いつも以上に時間と手間がかかりました。出来上がった料理を並べ、囲炉裏で食べると、料理とともに、手が



調理した炭火は調理温まり方違いました！

一期一会庵

「実践で変えていくこと」

先日、新潟にある教育研修所「点塾」にて「教えない教育」をテーマに理念研修をしていただく御縁をいただきました。

この点塾の清水義晴代表によると共同創始者である藤坂泰介さんという方と「一緒に輝く点になろう、点をつくらう」それを点塾の理念の原点に据えて開いたリーダー育成の塾です。この塾の起業のキッカケは藤坂さんの「今の教育は、教えるばかりで、育てることがない。だから、『教えない教育』をやろうじゃないか。教育の本質は教えないことだ」という一言に清水さんが呼応してはじまったそうです。これは私たちの実践する子ども第一義の理念、また事業「ミマモリング」と共通しています。同じ理念の中でこの研修は、終始居心地のよい場で新たな気づきや発見を沢山いただきました。偶然にも、クルーの一人は実父が20数年前に同じ場所と同じように研修を受けたことがあったそうです。世代を超えて研修する御縁をいただいたクルーを指導していただく清水さんを拝見していたら、「初志が有難い御縁によってつながっていることを実感しました。」

けた時間を丸ごと味わっているような、ゆったりとした時間を過ごすことができました。手間暇の中にある、暮らしの味わいを先人から学んでいけたらと思っております。

私たちも子どもたちの未来のために、初心を忘れないように様々な実践を続けていますが、それが時を経て積み重なり、遣り切れば人と人との心の中に初志が確実に結ばれていくように思います。論語に「徳は孤ならず、必ず隣有り」があります。純「高潔な人は、常に真心で人知れず自らを磨き実践を続けていきますが時として常にその徳を慕って集まってくる方々との御縁に恵まれるように思えます。私たちが目指している「子ども達のため」の研修というものは、こういうものを継続していくことかもしれません。

今回の研修で清水さんの後ろ姿から教わったことは本当に大きなものでした。清水さんは和のフアンリテーションというものを考案された方ですが、私たちは禍を全を福に転じていく「聴福人」を目指しています。日本の未来の子ども達のためにも、お客様の志の実現のためにも、これからも「一緒に素晴らしい研修を創造していきたいと思えます。」

編集後記

●今月もご愛読頂き、ありがとうございます。先生方の実践を深化されるお姿に、私たちも勇気を頂いています。暦では立冬を迎え、朝晩すっかり寒くなりました。皆様お身体にお気をつけてお過ごし下さいませ。

カグヤは「子ども第一主義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます。



本社
〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング2号館10階
tel.03-5909-7155
fax.03-5909-7199

カグヤウェブセンター
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17
東京堂神保町第3ビルディング8階
tel.03-3518-6217
fax.03-3518-6218

☎フリーダイヤル 0120-917-389
URL: <http://www.caguya.co.jp>
E-mail: support@caguya.co.jp
受付時間 月～金 9:00～18:00
(土・日曜祝祭日を除く)